AJWCEF

NEWSLETTER　2010 年 4 月
Vol. 1

AJWCEF からのごあいさつ

理事長　水野哲男

“グッデイ！”オーストラリアではよく挨拶にこの言葉を使います。太陽の光がさんさんと降り注ぎ、サンシャインステートと呼ばれるここクィーンズランド州にとてもよく似合う言葉です。ブリスベンやゴールドコーストにはトレンディーな高層ビルが立ち並び、住宅などの土地整備も急ピッチで進んでいます。そう、ここは世界でも有数の人口の増加率（国内外からの人の流入）の高い地域なのです。また、この気候と日本の数倍もある広大な自然を求めて世界中から多くの観光客がこの州を訪れます。でも、その観光客の中で、どれくらいの人がこのクイーンズランド州の自然や野生動物たちに今何が起こっているのか気付かれるでしょうか。ここクィーンズランド州に住んでいる人たち間でさえ、東南クイーンズランドのある地域のコアラの数が過去十年間に約 64%(推定 6,246 頭から 2,279 頭へ)も減少したこと、世界でクイーンズランド州北部にのみ生息するノーザン ヘアリーノズ ウオンバットが現在 130 頭余りしか残っていないこと、また、昆虫の世界でも、この州に生息するリッチモンド　バードウィング　バタフライがその生息地と唯一餌にしているバタフライバインの減少により絶滅の危機に瀕している事などはあまり知られていないのが事実です。

AJWCEF の第一の目的は、“自然や野生動物たちに今何が起こっているのか”を皆様に正確に知っていただくお手伝いをすることです。そして、皆様に“自然と人とのよりよい共存”について考えていただく機会を提供させていただくことです。その為にセミナーやシンポジュームを企画したり、スタディーツアーやトレーニングコースを開催して教育、啓蒙活動を行っていきます。さらには AJWCEF 独自で、またはオーストラリア政府の野生動物保護施設や、オーストラリアや日本の大学などの研究機関と協力し、調査や研究を進め、健全な生態系の維持のために提言などを行っていきます。

ただ、この様な活動は短い期間で結果を出せるものではありません。時には、何十年かかっても答えの見つからないこともあります。しかし、この地球の健全な生態系を守るために“今”何かを始めなくてはならないと考えます。私たち AJWCEF のスタッフは自らの世代でこの活動が成就するとは思っておりません。次の世代、またその次の世代にこの活動が大きな花を咲かせる事を夢見ております。この様な AJWCEF の目的にご賛同いただけます皆様には今後とも会員、ボランティアなどとして末永いご支援をいただきますことを心からお願い申し上げます。

Moggill Koala Hospital のコーナー

No.1

　ここモギルコアラ病院はクイーンズランド州で唯一の州立野生動物救護、リハビリテーション施設で、州東南部の地域で病気や怪我を負った野生動物たちが運ばれてきます。コアラの病気では、生息地を失ない、そのストレスによって免疫力が低下しクラミジア等の感染症を発病するケースが最も多く見られ、怪我の原因では交通事故や犬に咬まれるといったケースが主と言えます。またここでは親を失い人の手で育てられた孤児（英語ではコアラの赤ちゃんをジョイ JOEY と言います）を野生に帰す為のリハビリも行っています。スタッフには２名の獣医師、７名のレンジャーそして約４５名のボランティアがおり、当番制で、コアラの容態に合わせ飲み薬やミルクをやったり、患部の洗浄・消毒や薬の塗付、清掃、餌のユーカリの葉の交換などをこころを込めて行っています。
　モギルコアラ病院では野生動物たちを治療し自然に帰すことを目的としています。動物園のようにこの施設で飼育することを目的とはしていません。これは、野生動物保護を大きな生態系の維持という観点から捉えているからです。自然界にいる動物、植物そして微生物をも含む生き物全てが、自然の中で生態系を正常に維持する為大切な役割を担っているのです。野生のコアラも、自然の森の中で生息することにより生態系の維持に貢献しています。ですから、ここに入院するコアラには、人に慣れさせてしまったり、人に頼ることを覚えさせてはいけません。“動物との最小限の接触で最大限の看護”、これが野生動物を救護する上でとても大切です。また野生の彼らにとって病院に

入院しているだけで大変なストレスがかかり、衰弱してしまうこともよくあります。出来るだけストレスを軽減する事もとても重要です。

入院期間は、症状によって数日の場合もあれば数年に及ぶ場合もあります。しかし自然に帰ることが出来るコアラは入院全体数の２０％位しかいません。救助後、来院時にすでに亡くなっているケースもある他、何らかの理由で入院中に亡くなる場合、又は安楽死される事もあるのです。この病院では、現時点の病状だけでなく、将来どのような病気の経過をたどるのかを判断し治療方針が立てられます。将来病気の進行から長期にわたり苦痛や衰弱が続くと判断された場合は、政府の指針により安楽処置を施すこともあります。この病院で仕事をしている人たちは皆コアラが大好きです。その気持ちを抑えて、コアラを長い苦しみから救う為にこの様な辛い処置を行うこともあるのです。

ですからコアラ達が無事に森に帰っていく日を迎えるのは、ここにいる私たち全員にとってとても嬉しい瞬間です。一頭でも多く自然の森に帰られますように…それがモギルコアラ病院の願いです。

思い出のコアラたち

～レイラとトーマス～

文・写真：平野聡美

Raila と Thomas は、私たちの中に強い印象を残したコアラ達です。
Raila はレスキュー時に電車で運ばれた、恐らく初めての電車コアラです。
２００８年６月１日、Raila はモギルコアラ病院にやって来ました。ご想像の通り、名前は RAILWAY に因んでいます。

来院当初 Raila の袋の中にはまだピンキーといわれる毛の無い小さな赤ちゃんが居ました。

お腹がパンパンです

Raila はミルクが大嫌いで、ケアラーをてこずらせるコアラでした。赤ちゃんがいるから、余計神経質だったのかもしれません。
徐々に大きくなる Raila の腹部。
１カ月経ったある日、小さな小さな手が Raila のお腹辺りからこっそりとぶら下がっています！
無事に成長している！発見した時のケアラー達の喜びといったらありません。

赤ちゃんの手がこっそり出てきました！

そして、
毎日毎日、
赤ちゃん
は大きく
なり、Raila の袋は破裂しそうです。

お母さんの袋が赤ちゃんを優しく包みます…

いつでも赤ちゃんを守ります…

大きめのエリアに移された後、８月２日、とうとう赤ちゃんが顔を出しました！

一匹だったコアラが手品で二匹になったような不思議な登場！初の電車コアラの赤ちゃんということで、機関車トーマス！私たちは Raila の回復と Thomas の成長を見守りました。

袋から完全に出た日も、お腹にくっついてる日も、背中に乗り始めた日も、初めてママと一緒にユーカリを食べた日も、私たちは自分の子のように喜びました。

初めてママとユーカリを食べたよ！

Raila が病院から脱出を計画した時も、ママと赤ちゃんは一心同体で頑張りました。勿論成功しませんでしたが…。

ママの背中は大きいな…

少し離れても平気になったよ！自立に向けて一歩前進！

１１月２８日、Thomas も２kg を超え、そろそろ自立する時です。隣り合った別々の小屋に入れられました。

モギルコアラ病院内の幼稚園に入ったよ！（左：トーマス）友達が出来た！

子育ての後、やつれてちょっと心配そうに見える Raila、のんきにユーカリの葉に囲まれて眠る Thomas。Thomas が森に帰れても、Raila も帰られるのかは分かりません。未来に向かって旅立つ Thomas と、弱く揺れる Raila の命の間で、不安な思いを抱えて世話をするケアラーたち。１月９日、とうとう Thomas の旅立ちの日がやってきました。小さなかごに入れられる Thomas は何故かごに入れられるのか分からず鳴きます。心配げな目を向ける Raila。「大丈夫だよ！森で幸せになるんだから！」

また一人ぼっちになった Raila。Thomas と一緒に居た頃のたくましさを潜め、少し小さく見える Raila。このまま、弱っていってしまうのだろうか。そんなことはない、Raila も帰らなければ！そんな強い思いで、励ますように嫌がるミルクを少しずつ優しく飲ませるケアラー。Raila にその思いが通じたかどうかは分かりません。でも、私たちケアラーには奇跡のように思えました。

１月末、Raila が退院する日がやって来たのです！これほど、嬉しいことはありません！森に旅立つコアラに言う「さよなら」は、喜びにあふれています。レンジャーのピーターさんによって Thomas のいる森に放されました。Thomas はいずれ、自分のテリトリーを見つけ旅立たなければなりません。でも、Raila、それまではもう少しだけ、近くで見守ってあげてね！

HAPPY FOREVER

そして Raila も Thomas も、絶対に病院に戻って来ないでね！

私たちは今でも、そう心のなかで、メッセージを贈っています。

次回からもモギルのコアラ達のお話を紹介していきたいと思います。

頑張れ！野生の赤ちゃんたち！

ワラビー“プレシャス”と
エルシーさんの優しい毎日

ダークチョコ色の毛並みと大きく輝く瞳が素敵なメスのワラビー「プレシャスちゃん（大切なものという意味）」現在12ヶ月、1.2ｋｇ。コアラ病院の水曜日ボランティアチームのリーダーで、野生動物保護ライセンスを持つ経験豊かなケアラー、エルシーさんが育てています。SWAMP ワラビーか BRUSHTAIL ROCK ワラビーではないかと言う話ですが、まだ若すぎて尾が発達しておらず２歳位にならないと種類が判別できないそうです。

まだ小さいので、４時間おきに DIVETALAC という低乳糖のミルクをやらなければなりません。コアラ病院の当番の日でも、必要となれば赤ちゃんを連れてきてミルクをやります。

６週間程前にエルシーさんに引き取られた頃は、脱水症状の上にとても痩せていましたが、今はエルシーさんのお宅で跳ねたりとても元気に成長中。最近では順調に一週間に１００ｇ前後体重が増えています。家では床にサツマイモなどの餌を置くとすぐに跳びついて喜んで食べているようです。その食べる姿は性能の良い掃除機のようだとエルシーさんは微笑ましく話してくれます。

エルシーさんは１５年近くこうした活動を無償でされています。えさ代や施設整備代も全部エルシーさん持ちです。夜勤の仕事を持ちながら多くの傷ついた動物の世話をしています。体調を崩して２度も病院に運ばれました。それでも、自分の世話をしている動物の心配ばかりしている本当に愛にあふれた優しい人です。５～６Kgくらいまで成長すればブリスベンから約２７５ｋｍ離れた元の生息地に帰されます。その日が来るとちょっぴり寂しいけれど、誰よりも喜ぶのはエルシーさんに他ならないでしょう。元気に育ってね！

ここには彼女のように自己負担で一生懸命に野生の孤児を育てている人たちがいます。生息地保護活動をしている人たちがいます。AJWCEF は、こうした最前線で野生保護をされている方の支援を目指しています。これからも、心優しいケアラーと動物たちの温かいふれあいを一緒に見守っていきませんか？

文・写真：平野聡美

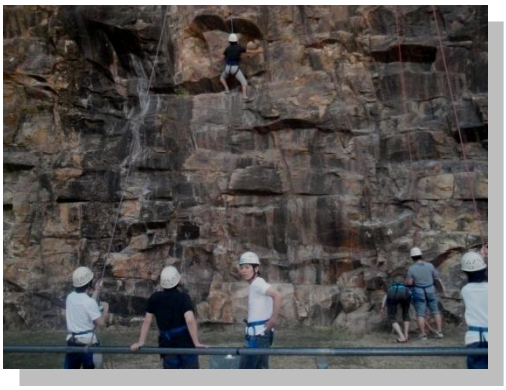
2009 年度
スタディツアーの報告

日本獣医生命科学大学２年
宮城亮一

ダインモア屠畜場にて

私は 8 月 30 日から 9 月 5 日にかけて行われたスタディーツアーに参加させていただきました。参加した理由はこの財団の理事長で在られる水野先生と個人的にお話しする機会があり、その中でオーストラリアの野生動物、獣医療に興味が湧いたからになります。

スタディーツアーではオーストラリアの固有種であるカモノハシやカンガルーの講義、野生動物保護センターの見学、



Free day でのロッククライミング

コアラ病院での研修

ダインモア屠畜場の見学など日本では経験できないことを数多くすることができました。特に、屠畜場の見学は日本では衛生上、中を見るのが厳しいので、貴重な体験でした。また、free day の日にはショッピングに行ったり、ロッククライミングの体験をしたりホエールウォッチングをしたりとオーストラリアの生活を感じることができました。

イルカの群れ(ポイント・ルックアウトにて)

今回のスタディーツアーでの一番の収穫は日本との違いを肌で感じることができたことです。そして、さらにオーストラリアに興味を持つことができ、充実したものでした。今後はオーストラリアで働くことも視野に入れ、ＡＪＷＣＥＦの活動に参加していきたいと思います。

2009 年 9 月トレーニングコース報告

文・写真　日本獣医生命科学大学３年　高橋めい

今回は財団初のコースということでしたが、私としては大変満足できる内容で、有意義なトレーニングができたと感じております。モギルコアラ病院やデイビットフレイでは、ボランティアの方や職員の方に教わりながら、動物たちの餌の準備、ケージの清掃、解剖を行い、治療も見学しました。

（写真上：モギルコアラ病院で入院中のコアラ。感染症で目が見えなくなっているが袋の子どもを守っている）
（写真右：デイビットフレイで飼育されているグライダー。麻酔をかけて健康状態をチェックしている）
（写真下：ルースさんのお宅で飼育されている親をなくしたカンガルー）

コアラのトラッキング調査では予想以上に身近な場所にコアラが生息していることを知り、ブリスベンフォレストパークやUQ動物病院、自宅を開放して野生動物を保護されているルースさんのお宅を見学した際には、野生動物保護には色々な分野で多くの方の協力が必要であると改めて感じました。ディスカッションやプレゼンテーションでも、野生動物と共生することの意味と難しさを考えさせられました。やはり現場で得るもの、現場でなければ得られないものは多く、多くの方にこのコースをおすすめしたいです。

第３回 AJWCEF セミナー報告

文・写真　日本獣医生命科学大学４年　黒田ゆうび

Dr.スティーブ・ジョンストン

今回は 2010 年 3 月 30 日に日本獣医生命科学大学で行なわれた第３回 AJWCEF セミナーの様子をお伝えします。

オーストラリアから Dr Steve Johnston と水野哲男 理事長にお越しいただき、講演していただきました。当日は獣医学生を含む５０人程の学生が参加し、大変良い反響をいただくことができました。スティーブ博士は主にオーストラリアの有袋類の繁殖について研究されており、世界で初めてコアラの人工授精を成功させています。実はコアラはオーストラリアでも場所によってその減少が危惧されている場所と逆に増えすぎている場所があり、どちらにせよ、人による繁殖管理が必要とされています。セミナーではその手段としての人工授精について、その意義や方法を細かく教わりました。また実際にコアラの発情行動や精液採取の動画も見せて頂きました。水野 理事長にはオーストラリアの野生動物保護の現状と今後の展望などを話していただき参加者は興味深く聞いていました。特にオーストラリアには固有種が多く、その動物を守ることで、地球全体の生物多様性を守ることに繋がります。また、オーストラリアでの自然や野生動物との関わり方と日本の場合を比較し、いかにオーストラリアが自然とうまく共存しているかを教えて頂きました。

セミナー会場の様子

２０１０年度　イベント情報

※詳細はホームページでご確認ください。

《日本国内セミナー》

① 2010 年 3 月 27 日　日本獣医学会において調査報告　終了
「コアラにおける人工受精応用」
スティーブ・ジョンストン　クイーンズランド大学上級講師
（世界で初めてコアラの人工授精に成功した科学者）
「コアラの消化器の進化について ー 唾液腺」
AJWCEF 水野哲男

② 2010 年 3 月 30 日　日本獣医学生協会大会において　セミナー開催　終了
「オーストラリア野生動物保護活動への参加」
AJWCEF 水野哲男
「オーストラリア希少野生動物の補助繁殖について」
スティーブ・ジョンストン　クイーンズランド大学

③ 2010 年 6 月上旬　オーストラリア野生動物スタディーツアー説明会予定
開催地　日本獣医生命科学大学　東京都武蔵野市

④ 2010 年 10 月中旬　COP10　AJWCEF 調査報告およびフォーラム開催
開催地　愛知県名古屋市

《スタディツアー》

① 2010 年 8 月 18 日（水）～8 月 25 日（水）
大学生・一般向け　オーストラリア野生動物スタディツアー
開催地　オーストラリア　クイーンズランド州

《トレーニングコース》

① 2010 年 3 月 7 日～3 月 21 日　終了
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）
開催地　オーストラリア　クイーンズランド州

② 2010 年 8 月 1 日（日）～8 月 15 日（日）
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（上級）
開催地　オーストラリア　クイーンズランド州

③ 2010 年 9 月 5 日（日）～9 月 19 日（日）
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）
開催地　オーストラリア　クイーンズランド州

ＡＪＷＣＥＦスタッフ紹介

黒田ゆうび　初めまして、日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学科に通う財団広報ボランティアの黒田ゆうびです。世界中の野生動物保護活動に参加していくことが目標で、世界各国の多種多様な動物たちと一緒に仕事をしたいです。絶えない好奇心とやってみないと気が済まない！！という性格から挑戦する事が大好きです。主に財団やセミナーの広報を行なっていますが、今後はオーストラリア現地でも活動していきたいと思っています。よろしくお願いします！このわんこはうちの KB (ケイビー) です、大きいですよ！

高橋めい　Good day, mate！０９年夏、スタディツアーとトレーニングコースに参加したことがきっかけで、広報ボランティアとして活動させて頂くことになりました、高橋めいと申します。私は野生動物の保護だけでなく、謎が多い色々な動物たちの形態、生態にも興味を持っています。特にオーストラリアはユニークな動物がとても多く、8 年前現地でその魅力に触れ虜になりました。これから財団の事をより広く知っていただけるように広報を行っていくとともに、皆さんと一緒に野生動物保護・教育活動に携わっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

植林体験

宮城亮一

はじめまして。ＡＪＷＣＥＦ広報ボランティアの日本獣医生命科学大学獣医学科の宮城亮一です。宜しくお願いします。

学生のみなさん、学生の時から海外に関わりたいと思っていても関われることは限られてしまうのではないでしょうか。そんなことを考えている中、水野先生からこの財団を設立するということを聞き、協力させていただくことになりました。僕はこの財団を通して多くの獣医学 生がオーストラリアに興味を持っていただけるよう全力で頑張っていきたいと思います。

平野聡美　こんにちは、皆さんがオーストラリアに来られた際に、こちらでお手伝いをさせて頂く事になりました、平野聡美（としみ）です。９８年、日本でモギルコアラ病院をTV で見て以来、私もお役に立ちたいと思い続け、本当にボランティアとして活動を始めて早や４年になろうとしています。人間しかいないかのような人工物にあふれた街・大阪に生まれ育ち、ここオーストラリアに来て、動物園では見られない誇りにあふれた立派な野生のコアラたちが、果てしない大空の下で自由を満喫している姿を目の当たりにし、私たち人間が他の動物とオーバーラップした生息地に生きている事、そして排除する事なく共存していくべきである事を強く感じました。これからも地球が賑やかでバランスのとれた健やかな場所になっていけるよう皆さんと力を合わせていきたいと思います。不可能に見えることもあるかもしれません。でも顔を目標に向け、情熱を絶やさず抱き続ければ、きっと同志にも恵まれ、少しずつ、しかし着実に前に進んでいけると信じています。どうぞよろしくお願いします。

これからも力を合せて頑張っていきましょう！

会員の皆様のためにミーティングや勉強会を開催しています。詳しくは日本広報担当ボランティアの黒田ゆうび (y.kuroda@ajwcef.org) 、または高橋めい(m.takahashi@ajwcef.org) までお問い合わせください。

ニューズレター発行元
オーストラリア野生動物保護教育財団　本部事務局
発行責任者　水野哲男
編集担当　　平野聡美　　尼崎杏奈

ホームページ www.ajwcef.org
住所　　PO Box 1362 KENMORE, QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話　　＋６１　７　３３７４－３９０９
FAX　　＋６１　７　３３７４－３５３１